

# 文字を通して育む力

～自発的な学びの意欲を引き出すためには～

## こども保育福祉科3年 保育専攻1班

飯塚翔 小田原由昂 小暮勇大

### 1. はじめに

私達は、保育園実習・幼稚園教育実習・施設実習に於いて様々な経験を積み重ね、「保育」について学んできた。その中でも4歳児クラスの幼稚園実習で印象に残ったことがある。それは、文字や手紙を用いて積極的に友達や保育者とコミュニケーションを図ろうとする子どもの姿だった。一方で、文字や手紙に全く興味・関心を示すことのない子どもの姿も見られ、文字に対する興味・関心の差は何故生まれるのだろうかという疑問が浮かんだ。

文字は現代社会に於いて重要なツールのひとつであり、子どもが成長した後の社会生活を営む為には必要なものである。私達は、幼児期の子どもは積極的に文字を使った遊びを楽しむことで文字に対する興味・関心が湧き起こり、それが文字を学ぶ意欲に繋がるのではないかと考えた。

幼稚園教育要領・保育所保育指針の言葉の欄には、幼児期に於ける文字を通じた学習は小学校のような「授業」としてではなく、子どもが文字に対して無理なく興味・関心を持つことが出来るようなものでなければならない、と記載されている。(※2. 文字・言葉の定義を参照)

この結果を踏まえ、私達は幼児期の子どもが「文字を通じた学習の楽しさ」を経験することが出来れば、文字に対する自発的な学びの意欲が引き出されてくるのではないかと、という考えに至った。

### 2. 文字・言葉の定義

※文部科学省・厚生労働省ホームページ、幼稚園教育要領・保育所保育指針より参照

#### 【言葉】

〔この領域は、経験したことや考えたことなどを話し言葉を使って表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚を養う観点から示したものである。〕

～以下中略～

#### 留意事項

(2) 文字に関する系統的な指導は小学校から行われるものであるため、幼稚園においては直接取り上げて指導するのではなく個々の幼児の文字に対する興味や関心、感覚が無理なく養われるようにすること。

### 3. 仮説

文字遊びを工夫することによって、子どもが文字への興味・関心を持ち、学びの意欲に繋がるのではないか。

### 4. 研究方法

#### (1) 活動実践Ⅰ

【対象】江戸川区立S保育園

【実践日】平成27年10月9日

【検証時間】10時00分～11時00分

【対象年齢】4歳児28名

#### (2) 活動実践Ⅱ

【対象】江東区K保育園

【実践日】平成27年12月4日

【検証時間】10時30分～11時30分

【対象年齢】4歳児13名

※尚、成長発達の段階で文字、特にひらがなに対する興味・関心の個人差が最も顕著に見られる年齢の為、4歳児を対象とした。

#### ■文字カードを使った言葉集め遊び

ねらい：文字を通じた遊びを行うことで、文字に対する興味・関心が湧くようにする。

- ・2人1組、2チームに分かれる。
- ・室内に散らばった50音カードを集め、1つの単語を作る。字数は問わない。
- ・出来た単語をボードに貼ったら学生が子ども達と単語を確認する。
- ・単語を完成させたペアは列の最後尾に並び、次のペアと交代する。
- ・勝敗やタイムを問う目的ではないので、言葉集め遊びを楽しむことが出来るような雰囲気作りに努める。

#### ■お手紙遊び

ねらい：手紙を書くことで、友達に自分の気持ちを伝えたり、文字を書く楽しさを知る。

- ・言葉集め遊びで組んだペア同士で手紙を書き、交換をする。  
(内容は言葉集め遊びを一緒に頑張ったペアの友達へのお礼や気持ち等。)
- ・自由に手紙を書いて楽しむ。
- ・手作りポストに投函する。

#### (3) アンケート調査

- ・実践した4歳児クラスの担任保育士にアンケート調査を実施。
- ・アンケートの結果についてはパワーポイントを参照。

## 5. 実践の様子

### ■文字カードを使った言葉集め遊びの様子

子ども達は言葉集め遊びを始めた当初から活動のルールを理解し、友達同士でどのような言葉を作るかを相談しながら積極的に取り組んでいた。

その為、活動に対して意欲的でなかったり、消極的な様子の子どもは見られなかった。

S 保育園では、カードを集め終わったにも関わらず、まだカードを探している男児がいた。学生の所へやって来た男児の手には、新たに「む」と「し」のカードがあった。男児は、「くわがた」という言葉を発展させ、「くわがたむし」という言葉を作り出していたのだった。

K 保育園では、活動実践中は動物や果物等の2～3文字の単語が多かったが、1週間の間に人の名前や歌詞等、文字数が増えていることはもちろん、濁音や半濁音なども用いて単語を作り出していた。

私たちはこのような姿から、子どもは文字を通じた遊びを行うことで文字に興味・関心が湧き、自ら発展させようとする力を発揮することがあると考えた。

### ■お手紙遊びの状況と考察

文字に触れ合った後に、実際に子ども自身の手で手紙を書く活動を行った。

1枚目はカード集め遊びの際にペアを組んだ子ども同士で手紙を書いた。この手紙は友達同士で交換を行った為、文字を通じて自分の気持ちを伝えることの楽しさや喜びを感じている様子だった。

2枚目は各自自由なことを書いた。

文字を書くことが苦手な子どもも、周りの保育者や学生にどのように書くのかを質問したり、言葉集め遊びの際に使用した文字カードを見ながら書いたりと積極的に文字を書く活動に取り組んでいた。手紙の内容としては、活動実践を行った学生への気持ちを綴った手紙、自分の好きな物を羅列したもの等、実に様々なものがあった。

また、保育室にポストを設置したことにより、子ども達は「自分で書き上げた手紙をポストに投函する」ということにも楽しさや喜びを感じていた。

## 6. 考察 I

文字を使う活動を通して、子ども達が文字に親しみを持てば、自発的に文字を学ぼうとする意欲、姿勢を養うことができると考えた。

## 7. アンケート調査の内容・結果

Q1 『活動前と比べて子ども達は文字に興味を持ったと思いますか？』

Q2 『活動前と比べて、子ども達は自発的に文字を書くことに取り組んでいたと思いますか？』

Q1に対する答え

- ・ひらがな表や友達の名札を見ながら手紙を書いたり、自分で絵本を読むことにも興味を持ち始めていた。
- ・活動直後のお手紙を書く際に、普段鉛筆を持たない子どもが自発的に文字を書こうとしていた。

## Q 2に対する答え

- ・「あ」はどうやって書くの？等、保育士に文字を聞きにくる姿が増えた。
- ・ポストの存在もよかった。お友達に書いて渡している姿も見られた。

また

「就学時に本格的な文字書きに取り組む子ども達は、この幼児期にいかにして興味を持つかどうかにより、その内容は変わるのではないか。」

「文字カードを使った言葉集め遊びは、子ども達の集中力、友達と相談しながら行う力を客観的な立場から見させて頂いた。」

という意見を頂いた。

## 8. 考察Ⅱ

考察Ⅰとアンケート調査の結果から、子ども達の自発的な学びの意欲を引き出すためには、日々の生活の中で文字に関する遊びを通した様々な活動を継続的に行うことが必要であると私達は考えた。

## 9. まとめ

今回の研究に於いて、私達は、文字・言葉の定義が示している通り、幼児期に於ける文字に対する興味・関心・感覚の育みは、系統的な指導を通して行われるものではないと改めて考えた。文字への指導方法は様々な取り組みがされているが、遊びを通して文字活動を工夫することにより、文字への興味・関心が湧き起こればそれを入り口に、自発的な学びの意欲が育まれると結論付けた。

## 10. 参考文献

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』（文部科学省・厚生労働省ホームページ）

『保育実践 表現する楽しさを育てる 言葉と文字の教育』 今村和子著 小学館